

自作教材集（第2分冊）

中学校（LD、ADHD等通級指導教室）

68	身の回りの英語に気付こう！ Let's study Japalish!
69	漢字にチャレンジ どの漢字を使う？
70	「どのアルバイトがいいですか」
71	「視写」（書き写し）
72	自分たちの住んでいる町のバスにのろう
73	腕から先をほぐそう
74	階名を覚えよう
75	イメージして結んでみよう（ブラックボックス）
76	手・指を使おう
77	「点つなぎ（色付き）」
78	「ことわざカルタ」
79	ランダム作文「物語をつくろう」
80	英単語カルタ
81	「馬形埴輪」を作ろう
82	干し柿を作ろう
83	自分のことばで伝えよう
84	「報告しよう」（スピーチ）
85	四字熟語を完成しよう「カードで学ぼう」
86	アルファベットを習得しよう
87	英語の12か月を覚えよう
88	提出物管理ファイル
89	学習へのウォーミングアップとして
90	「正方形の面積から平方根を考える」
91	「自分の魅力を伝えよう ～面接に向けて～」
92	さらば！へのへのもへ子『笑って、笑って、〇〇！』
93	「読字、書字の補助道具」
94	おうぎ形と円と立体
95	「身の回りのローマ字が読めるようになろう」
96	質問の達人になろう
97	「うれしい・楽しい・心のカードで気持ちを和らげる」
98	「4色トレーニング」
99	分別収納システムキット
100	インタビューをしよう

101	正負の数 (加法・減法・乗法)
102	ビジョントレーニング
103	正負の数 (すごろく)
104	「〇〇中学校ってどんな学校？」
105	アクティブ・ビジョントレーニング
106	トライやる・ウィークに向けて
107	すごろくトーク
108	すごろく (ソーシャルスキルトレーニング)
109	漢字言葉を作るプリント【漢字でつながろう！】
110	自分の怒りについて考えよう
111	「冬休みの学習計画を立てよう！」
112	「ピンチはチャンス」カード
113	正負の数の四則計算
114	誰もが読める文字を書こう

1 教材名 腕から先をほぐそう

2 ねらい

- ・ 腕・肘・手首・指を大きく動かし、スムーズな運筆につなげる。(目と手の協応、目と身体の協応、追従性眼球運動)
- ・ 書字をする際、視点と終点を意識して書く。

3 指導の形態 個別指導

4 指導の内容

(1) 準備物 ホワイトボード(黒板でも可)、ボード用のペン数色(黒板使用の場合は細めの習字筆)、太めの筒(指が回せない太さの物)、

(2) 手順や活用の仕方

- ① ホワイトボードと対面し、右手に持ったペンで左端⇄右端へ往復して大きく弧を描く。(左手も同様にする。)
 - ・ ペン先を目で追いながら、最後までボードから離さずに描く。
- ② ホワイトボードに右肩を向け、右手に持ったペンで①の様にする。(終わったら左肩を向け、左手で同様にする。)

※①②とも、始点と終点が近くなるように意識しながら描くように指示する。



- ③ 太い筒を右手に持ち、外に回転させた後、左手で受け取る。次に、左手から回転して右手へと動かし、この動きを10回行う。(回数は子どもの状態に合わせる。)
 - ・ その際、手で持っていない筒の端の部分を目で追いながら筒を動かすこと。



- ④ 点つなぎや書字のプリント等、用意した物を行う。

5 指導上の留意点

- ・ ①②に取り組む際には、右手と左手で使う色を変えると子ども自身が軌道を確認しやすく、取り組みやすい。色は子ども自身が描きやすい(見やすい)と思う色を選択させる。
- ・ 腕などの筋肉をほぐすために、出来るだけ大きく一定の速さ(ゆっくり)で動かす方が、次の取り組みにも繋げやすい。
- ・ 最後までボードからペン先を離さずに描くようにさせると、プリントで行う時にも書き進めやすい。
- ・ また、動く筒の端を目で追うことで、視線だけで指標を捉えやすくなり、学習にも取り組みやすい。

1 教材名 提出物管理ファイル

2 ねらい

- ・ 宿題や提出物を自主的に管理できる。
- ・ 授業への参加意欲を高めるとともに、主体的に生活できる自信を身につける。
- ・ 家庭との連携を深める一つのツールとする。

3 指導の形態 全体に提案したのちに、希望する生徒のニーズに応じて個別で指導



4 指導の内容

(1) 準備物 教科別提出物クリアファイル（教科ごとに色分け）、連絡物ファイルケース

(2) 手順や活用の仕方

- ①提出物や宿題の管理の現状について、生徒と話し合い、本人にとってより便利でわかりやすい管理方法を考える。
- ②宿題や家庭向けプリントを一緒に整理し、種類別に仕分けする。
- ③仕分けしたプリント類に対応したクリアファイルを教科ごとに色分けして作成する。
- ④家庭向けプリントなどを入れるファイルケースを製作し、「学校⇄家庭連絡メモカード」を入れるポケットの使い方を説明する（家庭にも説明する）。
- ⑤上記③④をまとめて収納できる大きいサイズのファイルケースに入れ、宿題プリントや家庭向けプリントをまとめて管理できるよう継続して支援する。



5 指導上の留意点

- ・ 学級や学年全体に紹介し、特定の生徒のための特別な道具ではなく、必要を感じている生徒はだれでも利用できる雰囲気づくりを行う。
- ・ どの教科のクリアファイルを作成するか、どのようなファイルケースを使うかなどについては、生徒自身が選択して、納得して使うことができるよう支援する。
- ・ 学級担任や教科担任との連携を取り、ファイルが日常的に有効に用いられるよう声かけを依頼し、家庭にも活用を依頼する。
- ・ 宿題や提出物の管理が少しでもできるようになってきたら、その都度評価し、さらに意欲を高められるよう配慮する。
- ・ より便利な手段や方法を生徒が考えたときは、柔軟に変更、調整する。



1 教材名 質問の達人になろう

2 ねらい

- ・自分の得たい情報について、適切なしつもんができる。
- ・言葉の連想ゲームをとおり、語彙の拡充を図る。

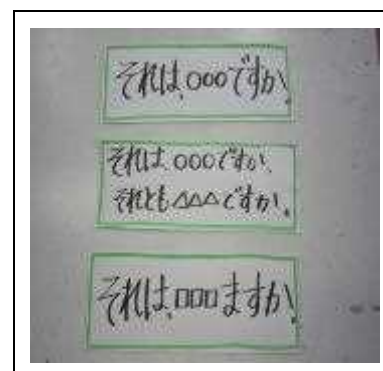
3 指導の形態 グループ指導

4 指導の内容

(1) 準備物 答えカード、質問カード

(2) 手順や活用の仕方

- ① 2～3人程度のグループでチームを編成する。
- ② チームで答える「くだもの」(例：リンゴ) を一つ決める。
- ③ 各チームから1人「質問を受ける人」を決める。
- ④ 質問するチームは「質問を受ける人」に対して順に1人1つの質問をして答えを引き出させる。
例：「それは丸いですか。」「それは青いですか、赤いですか」
「それは片手で持てますか。」など
- ⑤ なるべく少ない質問の回数で正解にたどりついたチームの勝ちとなる。
- ⑥ 「質問を受ける人」はなるべく正解に近づかないように答える。(※ルールは事前に確認する。)
- ⑦ ゲームは「それは(リンゴ)ですか。」
「はい、(リンゴ)です。」で終了。



5 指導上の留意点

- ・ 生徒の実態にあわせて、ゲームの答えにするジャンルを変え、だいたいの人知っているものをテーマにする。スポーツ、動物、乗り物など好きな分野から出題する。
- ・ 「わかりません」という答えは、ゲーム中に1度だけしか使えないものとし、多面的に物事をみるようにさせる。
- ・ どのような質問が出たかをふり返らせ、質問にはいくつかの種類があることに気付かせる。
 - 「はい」「いいえ」で答えられるもの
 - 選択肢のある質問
 - 大きな枠を確かめるもの
 - 前の質問に重ねるもの

1 教材名 「〇〇中学校ってどんな学校？」

2 ねらい

- ・ 小学校から中学校への進学にあたり、中学校生活への見通しをもたせる。
- ・ 中学校生活への不安を和らげる。

3 指導の形態 個別指導

4 指導の内容

- (1) 準備物
- ・ 中学校生活のスライド (パワーポイントで作成する)
(〇〇中学校の1年間、〇〇中学校のきまり、〇〇中学校の1日)
 - ・ パソコンまたはタブレット端末

(2) 手順や活用の仕方

- ① 年度初めの通級指導教室等で行う。
- ② 1年間のスライドを見せる。
- ③ きまりのスライドを見せる。
- ④ 1日のスライドを見せる。
- ⑤ 質問に答える。



5 指導上の留意点

- ・ 小学校の通級指導担当者と連携し、必要に応じて年度末に小学校において実施する。
- ・ スライドをカードや冊子にし、生徒に渡して、いつでも確認できるようにする等。



1 教材名 トライやる・ウィークに向けて

2 ねらい

- ・ 校外での一週間の活動に自信と意欲をもって取り組む。
- ・ いろいろな人とコミュニケーションをとり、「うまくできた」体験をする。
- ・ トライやる・ウィークでの体験を、将来の自分の仕事を選ぶときに活かす。

3 指導の形態 個別指導（グループでも可能）

4 指導の内容

(1) 準備物 ワークシート・便箋・封筒

(2) 手順や活用の仕方

- ① トライやる実施に向けて、不安な点をあげる。
- ② トライやる実施中の一日の予定を確認する。
- ③ 事業所の方に知らせておきたいことを整理する。
- ④ ③をもとに、自分を知らせる手紙を書く。
- ⑤ 「こんな時はどうする」を考える。
- ⑥ 実際の場면을想定して、ロールプレイをする。

【ワークシートからまとめたもの】

トライやる・ウィークこんなときどうする？

() 中学校 氏名 ()

朝、誰に会っても
『おはようございます。』「よろしくお祈いします。』

言われたことがわからなかったら、
→もう一回聴く『よくわからなかったので、もう一度お願いします。』

失敗したり、うまくいかなかったときは
→近くの人に 『失敗しました。(うまくできません)
どうすればいいですか？』

言われたことが全部できた時
→近くの人に 『できました。』
『次は何をすればいいですか？』

いつでも(教えてもらったとき・助けてもらったとき)
→誰にでも 『ありがとうございます。』

もし、自己紹介しなければならぬ時は
→ 『おはようございます。(こんにちは)
○○中学校の ○○○○です。
一週間頑張りますので、よろしくお祈いします。』

トライやる・ウィークにあたって

トライやる・ウィークでお世話になります。
一週間がんばろうと思っています。
でも、少し心配なことがあります。
 仕事ができるか不安です。
 初めての場所、知らない人に
話しかけるのは苦手です。
 言葉でうまく言えなかったり、
言うのに時間がかかったりします。
そこで、できればこんなふうにしていただけると、
うれしいです。
 その日の予定をはじめに教えて
もらえると、安心して取り組みます。
 説明をされてもうまくできない時は、
指示を紙に書いてもらえると
よくわかります。
お忙しい中、ご指導いただいております。
どうぞよろしくお祈いします。

※ワークシートの項目例

こんなときどうする？

- 朝、誰かに会ったとき
- 言われたことがわからなかったら
- 失敗したりうまくいかなかったりしたとき
- 言われたことが全部できたとき
- 教えてもらったとき・助けてもらったとき
- 自己紹介するとき

一日の流れ

	やること	注意点
9:00		
9:30		
12:00		
13:00		
16:30		

自分説明書

心配なこと	お願いすること
・	・
・	・
・	・

5 指導上の留意点

- ・ まずは自分の力で考えさせ、(何が困るのか。どう対処したらよいか。) そのあと指導者からいろいろな場面設定を提示する。
- ・ 実際にロールプレイをしてみることで、不安を少しでもなくして本番に臨めるようにする。
- ・ 保護者の方にも指導した内容を伝えて協力してもらう。
- ・ トライやる事後に振り返りを行う。